

学校体育の指導過程において 抱かれる教師の「創作ダンス」 観念（Ⅱ）

—『女子体育』誌における「小学校の
表現運動」「中学校のダンス」から—

佐々木 昌代

1. ねらい及び方法

社団法人日本女子体育連盟発行『女子体育』より、実践報告「小学校の表現運動（高学年）」「中学校のダンス」（平成元年4月号～平成6年3月号）を取り上げ、具体的な指導案を除く文章部分を意味微分・類別し、以下の(1)～(3)について、小・中学校体育の指導過程において抱かれる教師の創作ダンス観念を相対的に探究する。

- (1) 指導者、学習者の創作ダンスに対する意識、特に期待感、抵抗感などについて
- (2) (1)の意識を起因させる背景について、併せて学習者に関してはその実態について
- (3) (1)(2)、特に学習者の意識とその背景、を受けて、指導者が意図する学習のねらいについて

2. 結果及び考察

(1) 指導者、学習者の意識

表1 表題、学習者の意識、指導者の意識

発行年/月	表題 (課題を除く)	学習者	指導者
(小学校)		(○:期待感 ●:抵抗感)	
平成元/7	2時間続きの課題学習		
12	「速る 速る ○○が速る」		
平成2/1	1 「○○がだんだん○○する」		
4	年間計画をたてる		
5	心を育てる表現運動		●
6	自分のイメージの世界に変身	○	●
7	学習をふり返る		
9	体全身でそのものになりきろう		
10	個性を生かす課題学習		
12	初めて取り組んだ表現運動		
平成3/2	2 子どもたちを見つめ直して表現学習を		
4	子ども自らが表現する楽しさや喜びを 味わうことができる学習を目指して		
5	書報たいへんだ、たいへんだ		●
6	あらし		
7	ダンス「○○六のー」（イメージ画）を作ろう	○	
9	動きの手がかりと見通しを持たせて子どもにゆだねる	○	
10	自発的に取り組む表現運動の授業づくりをめざして		
12	対立する○○	○	
平成4/1	1 子どもたちが生き生きと取り組む表現運動を	○	
2	高学年表現運動に関する一考察	○	
4	表現運動の実践	○	
5	高学年の発達と実践に即した表現運動の実践と考察	○	
6	「○○が激しい」		
7	ひとり学習をみつめて		
9	生きること、表現すること		
10	発達段階を考慮して	○	●
平成5/1	1 思い出づくりの表現運動	○	
2	心を開いて踊れる表現運動をめざして	○	
4	もっと激しい○○になろう		●
5	思いきって跳ぼう!		○
6	速る-引っぱり合う-はなれる	○	
8	動きの思い出アルバム	○	
9	身体表現による豊かなコミュニケーションの世界を	○	
11	踊る目を生かす表現学習		
12	思いついたことを言葉にし、はやく体で表す		
平成6/1	1 自然の動き	○	●
2	誰もが楽しく学習できる表現運動をめざして		

(中学校)			
平成元/5	単元への進め方とそのサンプル	○	
7	ダンスの特性にふれさせるための学習計画と指導	●	○
9	意欲的にダンス学習に取り組むための工夫	●	●
10	からだを見つめ、からだと語る一時間	●	●
12	たのしいダンス学習を求めて	○	○
平成2/1	1 中学校における創作ダンスの指導について	○	
2	5 初任者教師のダンス入門	○	●
6	表現指導と発達段階	○	●
9	課題学習に取り組んで	●	
12	ダンス学習をふりかかって……	●	
平成3/1	1 「わたしは洗濯物」		
2	学習のまとめを生かす		
4	中学校間を生かすダンス		
5	個と群	●	●
6	課題内容と学習法		
10	ダンスとコミュニケーション	●	
12	ダンスの入口にたつて	●	
平成4/1	1 男女共修によるダンス学習の試み	●	
5	カリキュラムの実践と補正	○	
7	動きの特徴をとらえ自分のからだに伝えよう	●	
10	群を生かす	○	
11	自分たちで高め合う学習のこころみ		
12	個性を生かす指導のために	○	○
平成5/1	1 二回目のダンス学習		○
2	よりよい授業実践のために		○
9	はじめて取り組む男女共修のダンス指導	○	○
10	生徒を意欲的にさせた授業の工夫	○	●
11	生徒の創意とダンス発表会	○	○
平成6/1	1 課題学習のまとめと次の目標	○	
2	生徒とともにひらいたダンス学習	○	

- ・学習者の意識は、小学校で期待感がより多く、中学校で抵抗感がより多くなっているが、平成4年度以降は小・中学校ともに期待感が増加している。
- ・指導者の意識は、中学校で抵抗感が多いが、学習者同様に平成4年度以降は期待感に転じている。

(2) 指導者の意識の背景

表2 指導者の意識の背景に関わる頻出内容

(小学校)	○ 学級経営の柱
○ 高学年に大切な領域	
● 動いてくれない	
● 教材選びに悩む	
(中学校)	○ 個性を生かす領域
○ 子どもの実容 出会い 感動の一瞬	
○ 男女助け合いながらの学習	
○ 経験	
● いかにかやる気を起こさせ、喜びを持たせるかに悩む	
● ダンス嫌いの子ども達	
● 経験不足 試行錯誤	

- ・小・中学校ともに、他領域との比較において「個性を生かす」「個性との出会い」などの価値を認め、学習者が「意欲的に生き生きと動いてくれる」期待と「動いてくれない」不安が交錯し、授業の成否が期待感とも抵抗感とも繋がっている。
 - ・中学校で、授業者として、あるいは学習者（学生）としての経験の有無が自信や不安に繋がっていると指導者がみられる。
 - ・中学校で、男女共修の授業実践とともに不安が期待に転じたとする指導者がみられる。
- (3) 学習者の意識の背景及び実態

表3 学習者の意識の背景及び
実態に関わる頻出内容

<p>(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 好き 楽しい やりたい <ul style="list-style-type: none"> ○ 制約されない ○ なりきれた ○ 学習の仕方が理解でき自分たちで進められる ○ イメージを広げ、そく勤ける ○ 友だちと対応しながらひとつの動きをつくれる ● 感じを出しきるところまではできない ● はずかしい 嫌だ やりたくない やらされている <ul style="list-style-type: none"> ● わからないから うまくないから <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 楽しみ 満足 やってみたい <ul style="list-style-type: none"> ○ 興味・関心のある内容の中で心を開いた ○ 発表会、マスゲーム、リズムダンスで意欲がでた ○ 生徒の創作力は未知の可能性をためている ○ 男女共修でお互いの良さを認め合った ● はずかしい 嫌だ 抵抗を持っている 踊らされている ● 浮かばない つくれぬい 難しい うまくない ● 音楽にのるのは好きだが創作は面倒くさい 嫌い ● 経験不足

- ・「楽しい」「好き」「やってみたい」などの期待感や満足感は、小学校では自由に表現できることによって、中学校では軽快な音楽によってリズムカルに動くダンスによる興味と経験によっている。
 - ・「はずかしい」「嫌だ」「やらされている」などの抵抗感は、小学校では「うまくないから」「わからないから」といった学習の成否によって、中学校では「ダンス」「創作」そのものに対する趣向や興味関心、経験不足によっている。
 - ・小学校では、学習者の表現運動に対する意識よりも、学習の内容から具体的な課題を見出している。すなわち、表現運動の学習のスタイルを理解して表現することはできるが、感じを出し切るところが課題である。
 - ・中学校では、学習者のダンスに対する意識そのものに課題を見出している。すなわち、経験不足と中学生特有の趣向が考慮された学習を体験することによって、ダンスへの意欲の掘り起こしが課題である。
 - ・中学校で、男女共修授業の積み重ねによる成果として、「個性」に加え「男女の特性」を生かすことから学習者の新たな期待感を見出している。
- (3) 学習のねらい

表4 学習のねらいに関わる頻出内容

<p>(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりが意欲を持つ 主体的に表現する。 ・楽しさ、喜びを味わう ・身体いっぱい使う 極限まで動く ・なりきる 自分の世界に変身できる ・友だちと高め合う <p>(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・恥ずかしさを取り除き楽しさ、喜びを味わい好きにする ・身体を使いきる 極限まで動く ・一人ひとりを生かす ・友だちと高め合う
--

- ・小・中学校ともに、「一人ひとり」の個性を生かしつつ、「身体を使いきる」極限性を体験させ、学習者同志の「高め合い」といった体育学習の基本的目標をねらいとしている。
- ・小学校では、学習者一人ひとりが表現運動に「主体的に」取り組み「自分の世界に変身」してなりきって動くこと、すなわち、何をどのように表現するかを理解し感じを込めてうまく表現できることから、表現運動が本質的に持っている楽しさや喜びを味わうことをねらいとしている。
- ・中学校では、学習者が特に「恥ずかしい」と感じる自己表現に取り組む前に、学習者の興味関心に添ったリズムカルなダンスや運動会作品、あるいはダンスウォームアップなどによって踊る楽しさや喜びを味わうことから、ダンスの本質に向かうことをねらいとしている。

3. まとめ

学校体育の指導過程において抱かれる教師の創作ダンス観念について、『女子体育』誌「小学校の表現運動（高学年）」「中学校のダンス」から探究したところ、以下の結果がえられた。

- (1) 中学校においては指導者の創作ダンスに対する抵抗感がより多くなっているが、期待感への転換の方向にあり、それは授業の成否による学習者の意識によっている。
- (2) 学習者の創作ダンスに対する抵抗感は中学校でより多くみられるが、小学校とともに期待感への転換の方向にあり、小学校では「わかる」「できる」が学習者の期待感・抵抗感に繋がり、中学校では創作ダンスの特性と学習者の興味関心のずれが抵抗感に繋がっている、と教師は捉えている。
- (3) 教師は学習者の創作ダンスに対する意識・実態を的確に捉えそれらに添って、小・中学校ともに「楽しさ、喜びを味わう」授業を目標としながら、小学校では「わかる」「できる」学習を組み立てることでその結果として学習者にとって楽しい授業をねらい、中学校では第一に「楽しい」学習を目指して学習者がダンスの授業を好きになることをねらいとしている。

(1)(2)(3)を考え合わせると、(3)の積み重ねによって(1)(2)の結果がえられていると想像されるが、現場教師の実践報告では、その性格から個々の積み重ねを中心に述べられているため明らかではない。学校体育あるいは女子体育全般を見通した授業実践の積み重ねによる成果は具体的な学習指導としてまとめられていると考えられるので、今後、研究を継続するなかで、明らかにしていきたい。